２０１８年
９月 １日
No. １１０
隔月１回発行

特定非営利活動法人
レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク会報

ひきこもり

イラスト　高津

会報は札幌市さぽーとほっと基金助成事業・ひまわりピアサポート基金により作成されています

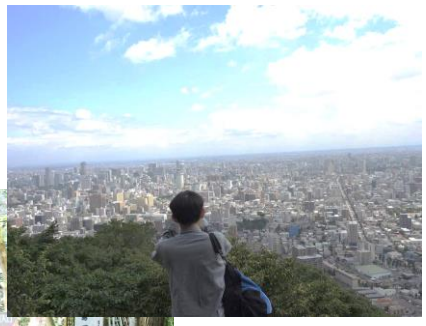
Ｉｎｄｅｘ

2ページ　盛夏の円山地域巡り登山～盛夏の気持ち良いひととき
　　ひきこもりサテライト･カフェ in 小樽　さえきたいちさんが来道
3ページ　ひきこもりサテライト･カフェ北広島市･苫小牧市で開催
4ページ　居場所「よりどころ」当事者の話題提供による学習会
5ページ　変わるひきこもり支援～共同通信社が全国に向け配信
6ページ　さえきたいちさんとの対話①「北海道は何度でも来てみたい」
　　8050 問題を鋭く追う～「北方ジャーナル」に掲載
7ページ　10月に開催される当NPO主催のイベントの紹介
8ページ　こちら事務局／編集後記

盛夏の円山地域巡り登山～盛夏の気持ち良いひとときを

８月１日水曜日、連日30℃を超える暑さが続く北海道札幌、気温だけでなく湿度も高め、こまめに水分補給が求められていますが、恒例のＳＡＮＧＯの会８月例会外企画「盛夏の円山地域巡り登山」を希望者３名で実施しました（写真―１）。

この日はＮＨＫ札幌放送局のディレクターもカメラをもって参加。外部の人が登山に同行するのは５年前に卒論研究で女子大学生２名が参加して以来になります。天候にも恵まれ盛夏の気持ち良いひとときを過ごしてきました。秋には三角山大倉山を楽しみます。



（写真―1）円山の山頂から札幌市街地を望む
（上）山登りの起点・藻岩山ルート案内図（下）

ひきこもりサテライト・カフェ in 小樽開催～さえきたいちさんが来道

（写真―2）サテライト・カフェで話題提供するさえきたいちさん（中央）

７月18日水曜日、「ひきこもりサテライト・カフェ in 小樽」を小樽市総合福祉センター４階和室で開催。小樽市やその近郊から24名の参加、当初の予定を変更し大阪から来道したひきこもり外交官であるさえきたいちさんに話題提供していただきました（写真―２）。

さえきさんからは「それぞれの地域の特色もあるが、何よりも大切になるのは資格ではなく『人』である」と強調。ひきこもり実践の場にどのような『人』がいるかが重要な鍵であるとし、会社そのものがブラック化するように、人々の心に余裕がなくなるなか、些細なことでお互い傷つけあってしまう「人間関係のブラック化」の課題を指摘しました。

また子どもの行く末を案じる高齢の家族に対しては、さえきさんは「親以上に当事者本人がそのことに気が付きわかっているところがある。本人一人ひとりの自律を大切にしていく家族のかかわりが大切」とアドバイスしました。参加者からはたいへんわかりやすい話に随所に頷く姿が多く見られ大盛況に終了しました。

続く８月15日終戦記念日に開催したサテライト・カフェには20名が参加し、うち初参加の方は４名。私たちＮＰＯの取り組みについて長期的に密着取材を続けるＮＨＫ札幌放送局のディレクターが、今回もカメラをもって参加しました。９月は女性の立場から、生活保護から大学に進学し社会活動をする深堀麻菜香さんに話題提供をしてもらいます。ご期待ください。

ひきこもりサテライト・カフェ in 小樽は毎月１回第３水曜日午後２時から小樽市総合福祉センター４階和室にて開催しています。詳細は８ページをご覧ください。

成果物のお知らせ

「当事者から捉えるひきこもり回復後における就労定着促進 調査研究事業 報告書」A4 判全 47 頁

希望者には郵送手数料一冊 500 円で頒布します。部数に限りがあります。お早めに申し込みください。

Ｌ・Ｐ・Ｆ活動報告

ひきこもりサテライト・カフェ 北広島市・苫小牧市で開催

8月2日木曜日、「ひきこもりサテライト・カフェ in 北広島①」を北広島市芸術文化ホールにて開催しました。開催にあたっては北広島市ほか2団体の共催、後援2団体を得て16名に及ぶスタッフも参加。地域に根差した地道な取り組みをこれから続けていきたいです。話題提供は好評の場面緘黙とひきこもりの経験者である大橋伸和さんが行いました。

続く8月9日木曜日には、当ＮＰＯ主催、苫小牧市・胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室（苫小牧保健所）共催、苫小牧市社会福祉協議会・苫小牧市地域生活支援センター・相談支援事業所サポート・バオバブ親の会（不登校親の会）・北海道新聞社・苫小牧民報社後援による支援団体機関連携事業「ひきこもりサテライト・カフェ in 苫小牧①」が苫小牧保健所2階会議室で開かれました。市内の当事者本人8名を含む家族や支援者など33名が参加し、当ＮＰＯの武田俊基理事が自らのひきこもり体験と家族等のかかわりについて話題提供し「ひきこもりは状態でありその身動きがとれない状態を受け止めることが何よりも肝要」と指摘しました。その後年代別と当事者グループの5つに分かれて交流を深めました。簡易アンケート調査票からは「共通理解ができモヤモヤしている部分がすっきりしました」など好評でした。

日新刊図書紹介―芦沢 茂喜（著）「ひきこもりでいいみたい」生活書院

「ひきこもりを否定するにしても肯定するにしても今の状態から変わることを私は彼らに求めていた」山梨県精神保健福祉センターに勤務する著者が自らの実践を内省しこう書き記した。「私は福祉制度や精神保健に関する知識はもっている。その点において私は専門家なのかもしれない。ですが本人がこれからどう生きていくかにおいて私は素人であり専門家は彼らであり私は彼らを応援することぐらいしかできないように思える」と「ひきこもりはダメ」や「ひきこもりは良い」といったように予め断定することを止め今の状態を認めることにした」。専門家によくありがちな「問題の詳細を評価し計画を立てることを止め家族、本人が周りとの間で悩みながら折り合っていく過程についていくことにした」という。そして今の状態に注目しその折り合いをつけていくためには「対話」が重要であると説く。哲学者である鷲田清一の考えを引用し「語り合えば語り合うほど他人と自分との違いがより微細にわかるようになる」それが「対話」であると述べ当事者が苦痛を強いられやすい他者との同調主義や他者との比較の病いからの解き放ちがいかに大切かを本書から理解できよう。

（田中　敦）

ひきこもり当事者見守る絵はがき～活動内容が北海道新聞に掲載

ひきこもり当事者へ絵はがきを無理なく送る「手紙によるピア・アウトリーチ」の活動内容が8月7日付北海道新聞くらし欄に掲載された（写真―1）。記事には、この活動をはじめた経緯や絵はがきに書く内容が紹介され、「緩やかなつながりを大切にしたい。手書きの絵はがきをポストに入れて送るというアナログな手法だからこそ築ける関係があると思う」と田中敦理事長は述べている。

8月7日（火曜日）　北海道新聞

くらし

ゆるやかなつながりを 書き手育成にも着手

ひきこもり当事者見守る絵はがき

送付3年、札幌のNPO

札幌のNPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが、ひきこもりの当事者に絵はがきを送る活動を始めて7月で3年がたった。これまでに送った相手は約100人。4年目を迎え、もっと多くの人に絵はがきを届けるため、9月には書き手を育てる活動を始める。（竹山恒記）

目前で絵はがきを書く田中さん。受け取り手を思い描きながら、ペンを走らせる（宮本俊也撮影）

（写真－1）８月７日付北海道新聞くらし欄
書き手育成のための研修会（８ページ参照）
を開催することが記載されている

札幌市の委託事業　居場所「よりどころ」活動報告
ピアサポーターによる当事者の話題提供による学習会

札幌市の委託事業「集団型支援拠点設置運営業務」居場所「よりどころ」の当事者会、親の会が7、8月にそれぞれ1回開催され、親の会では、前段でピアサポーターによる話題提供があり、その後グループワークを行いました。

7月23日（月）の親の会では、当ＮＰＯの吉川修司理事が「なぜ、ひきこもるのか、そのときの家族の対応」と題して50代になった今、ひきこもりについて語りました。

大学卒業後続けたアルバイトを辞めたときに父親から「人生ドブに捨てたな」と怒りをぶちまけられたときを振り返り、「親や家族は感情的にならず、『働かねばならぬ』といった絶対的な価値に縛られることなく『就労以外にも自立には多様な形がある』とした柔軟な姿勢で接してほしい」と述べました。

また精神分析学の岸田秀の著作に触れ「人間の子どもが大人になるのは社会的に強制されるからにすぎず、子どもから大人への『成長の内的動因』のようなものは存在しない」という箇所を引用し、「ひきこもりが現代を取り巻く社会環境から生み出されている側面もある。親が我が子を何とかしたい気持ちは理解するが、自立を促すために外部へ出していく方向でのみ考えるのは疑問が残る」とひとりのひきこもり体験者としてのその考えを述べました。

8月20日（月）の話題提供は場面緘黙症で発達障害的傾向のあるひきこもり経験者のピアサポーター大橋伸和氏（写真－1）。「場面緘黙」「不登校」「ひきこもり」からのリカバリープロセスについてスライド資料40枚を駆使してわかりやすく解説しました。

今回の話のなかで印象に残ったものを挙げると、学校のクラスメイトが優しいがゆえにあまりかかわらないでそっとしておく風潮が流れ、結果として孤立感を深めてしまう、という「善意ある疎外の辛さ」、そして「昼間の時間でも、みんな学校に行っていても、気にしないで本を読んでいてもゲームをしていても、自由に過ごしてもいいんだからね」と語ってくれた身近な家族の温かいかかわりがあったところです。

熱心な音楽教師が音楽室に呼びだし発声練習する、という行為が公然とあったことからも場面緘黙については言葉ではよく聞かれるようになりましたが実際の当事者の声はまだまだ少なく、理解はこれからだと思われます。

（写真－1）「自分が周りから認められることが大切」と自身のリカバリープロセスを語る大橋伸和氏

また8月6日（月）に開催された当事者会はゆったりと足を伸ばしてくつろぐことができる和室で開催しました。

女性の参加者が多いことからミニ女子会をひきこもり地域支援センターから来た女性職員が担当し、忌憚ない意見交換が行われました。その傍らでは将棋やオセロ、ドイツのカードゲームで楽しむグループもあり、30年前の人生ゲームを３名で楽しんだグループからは「懐かしい」という声が上がり、童心を思い出しながら楽しめる集りとなりました。

「よりどころ」開催のご案内（10月～12月）

（当事者会）
- ⑤10月1日(月)　3階・310会議室
- ⑥11月5日(月)　1階・110会議室
- ⑦12月3日(月)　1階・110会議室

（親の会）
- ⑤10月22日(月)　3階・310会議室
- ⑥11月19日(月)　3階・310会議室
- ⑦12月17日(月)　3階・310会議室

開催会場：北海道立道民活動センター「かでる2.7」（札幌市中央区北2条西7丁目　道民活動センタービル）JR札幌駅南口から徒歩13分
開催時間：いずれも午後1時～4時まで
出入り自由　参加費は無料

「よりどころ」は札幌市から当NPOが受託し、札幌市ひきこもり地域支援センターと協同で実践する北海道内初の居場所です。サロンを訪れるような気持ちで気楽にお越しください。

就労から居場所づくりへ～変わるひきこもり支援
居場所「よりどころ」当事者会　共同通信社記事が全国に向け配信

７月２日（月）に開催された居場所「よりどころ」当事者会の模様を伝える共同通信社取材記事が、毎日新聞、日本経済新聞のほか地方紙９社に新聞記事として配信された。岡山県の山陽新聞では夕刊一面（写真－１）に掲載され、全国でも珍しい公設民営の居場所に集まる当事者が、ピアサポーターとともに語らいゲームしていく中で閉ざした心が少しずつ和らいでいく様子が取り上げられたほか、居場所事業を委託する札幌市子ども未来局子どもの権利推進課の菅原純弥 係長が「当事者には『行政に相談しても何かを強制される』との警戒心が強い。まずは足を運んでもらうことが必要だった」と述べ、札幌市以外でも広がる自治体と連携した支援の動向を伝えた。

今回取材を担当した共同通信社の永澤陽生 生活報道部次長は、昨年から長期連載を続けた「扉を開けてルポひきこもり」を手がけ、ルポの第４部「再起」では当 NPO の取り組みを紹介している。

主な自治体のひきこもり支援

札幌市	ＮＰＯ法人に居場所の運営を委託。スタッフはひきこもり経験者
浜松市	精神保健福祉センターとＮＰＯ法人が協力。家族教室や訪問支援など役割分担
兵庫県	県内５カ所でＮＰＯ法人に地域ブランチとして委託し、居場所、親の会、相談会などを実施
熊本県	県のひきこもり地域支援センターが市町村と連携。2016年度からは女子会も開設

就労から居場所づくりへ

変わる ひきこもり支援

中高年のひきこもりの人が増える中、自治体の支援が変わりつつある。一方的に就労に導くのではなく、当事者団体と連携して居場所をつくり、一人一人に応じた「小さな一歩」を踏み出せるようにするのが特徴。国も財政面で後押しをする。

ひきこもりの人が集う居場所「よりどころ」でスタッフと将棋をする男性（手前）＝７月、札幌市

「外は雨ですが、皆さんの心の天気はどうですか？」。７月、札幌市中心部の公共施設。車座になった30代から50代の男女十数人に交じり、男性スタッフが声を掛けた。

ひきこもりの人が集う「よりどころ」。NPO法人「レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」（田中敦理事長）が市の委託で6月から月1回運営する、全国でも珍しい〝公設民営〟の居場所だ。スタッフの多くはピアサポーターと呼ばれるひきこもり経験者。当事者の目線で、参加者の悩みに耳を傾ける。

白石和美さん（30代、仮名）は「ちょっとでも人と話せるようになりたい」と参加した。中学時代から友だちづきあいが苦手。大学卒業時は就職氷河期のまっただ中で「自分のような人間が働くのは無理」と自宅にひきこもった。パソコンや漫画で一日を過ごし、気づけば16年がたっていた。

スクランブル2018

「このままではまずい」。そう思ったのは父親の定年退職がきっかけ。市の無料相談会で、よりどころを紹介された。この日はトランプや雑談をするうちに少しずつ打ち解け、帰る頃には心の天気が「雨」から「曇り」に変わっていた。

国のひきこもり支援はこれまで就労が中心だった。２０００年代初めにニート（若年無業者）という言葉が使われ、各地の地域若者サポートステーションで面接指導や職場体験を実施。対象は原則39歳までで、短期間に就職率を上げることが主眼だったため、中高年層や生きづらさを抱えた人たちがこぼれ落ちた。

中高年増加で官民連携

昨年度、札幌市に家族らから寄せられた約千件の相談のうち約３割は40代以上。市子どもの権利推進課の菅原純弥係長はレター・ポストとの連携について「当事者には『行政に相談しても何かを強制される』との警戒心が強い。まずは足を運んでもらうことが必要だった」と説明する。よりどころには精神保健福祉士らも同席し、本人の意向をくんだ上で、必要な支援につなげたい考えだ。

地域での取り組みは兵庫県や熊本県、浜松市などにも広がる。厚生労働省は本年度から自治体に補助金を出すなど、関係機関とのネットワークや居場所づくりを支援する。レター・ポストの田中理事長は「国の就労支援は必ずしも本人のニーズと合わず、39歳という年齢制限もひきこもり長期化の一因になった」と分析。「居場所で力を蓄え、自ら一歩を踏み出そうとするプロセスこそが重要だ」と強調する。

（写真-1）2018 年 8 月 17 日付山陽新聞夕刊一面

よりどころ　当事者会＆親の会合同企画
『ひきこもりカフェ in 札幌』開催のお知らせ

2019 年３月の「よりどころ」では親の会、当事者会が合同で「ひきこもりカフェ」を開催する。当事者、親双方の講師にそれぞれ思いを語ってもらうことで、今後の居場所のあり方や生きやすい社会とは何かを考えていきます。ぜひご参加ください。

講師：マインド氏（旭川当事者会 NAGI）
　　鈴木祐子氏（小樽不登校ひきこもり家族交流会世話人）
開催日時：2019 年３月４日（月）午後１時～4 時まで
開催会場：北海道立道民活動センター「かでる2.7」10 階 1060 会議室
（札幌市中央区北２条西７丁目 道民活動センタービル）JR 札幌駅南口から徒歩 13 分
利用対象：ひきこもり当事者及びその家族
参加費：無料　事前申込不要　直接会場にいらしてください（出入り自由）

ひきこもり外交官

さえきたいちさんとの対話①「北海道は何度でも来てみたい」

日本各地のひきこもりの現状を伝える「ひきこもり外交官」ことさえきたいちさんが7月に来道しました。北海道をこよなく愛するさえきさんにお話を伺いました。

（聞き手・吉川修司）

北海道のどんなところが好きですか

富良野のラベンダーに癒されます。２０００年当時「北の国から」が放送されていて、いたるところでテーマ曲が流れていました。北海道に来たら必ず富良野へ行きますね。釧路湿原にも行ってみたいです。

北海道道ではどのような形で周遊するのですか

青春18切符を使って時間がある限り足を運んでいます。北海道は何度来てもあきないです。

小樽のサテライト・カフェはどうでしたか

２年振りの小樽でした。行政の方が多かったようですが当事者も来ていました。結構いい反応してくれました（２ページ参照）。

どんな話をしたのですか

北海道にいるとわかりにくいことが多いので、最近のひきこもり事情や、全国いろんな場所に行くから地方の動向についても話しました。

一番語りたかったことは何ですか

ひきこもりの問題というのは、本人の気持ちだとか、就労意欲とかではなく、もはや社会問題というか雇用問題になりつつある。そこにブラック企業とか人権を侵害するようなパワハラが横行するような職場や学校環境があるので、ひきこもらざるえない状況をつくりだされていると思います。

さえきさん自身も随分辛い思いをしたのですか

そうですね。特に子どもの頃は人に対する恐怖が物凄くあり、いろんなことが上手くいかなく辛い思いをしました。その思いが頭から消えないほど残っているため、（実生活で）動きにくいし経験も積めませんでした。

ひきこもりで悩んでいる親に対してアドバイスはありますか

親が悩むと子どもはもっと辛くなります。そもそも親が解決することではなく、今の状況をどうとらえ、どう動くかは本人の問題。親が悩んでも仕方がありません。本人が動きやすくなる環境をつくってあげるくらいだと思います。

（次号へつづく）

タイトル写真は
富良野ラベンダー
畑で撮影した一枚

8050 問題を鋭く追う～「北方ジャーナル」に掲載

当 NPO 主催「長期在宅ひきこもり当事者支援向け家族アセスメントツール開発事業・第１回支援開発検討委員会」を取材した内容が情報誌・北方ジャーナル（2018 年９月号 写真）に長期間ひきこもりのルポを書いているジャーナリストの武智敦子氏の記事が掲載された。

ルポひきこもり㊱～「親子共倒れ、地域から孤立を防ぐためのソーシャルケアとは 失われた 20 年が生んだ構造的困窮」。センセーショナルなタイトルではじまる記事では、「失われた 20 年」と呼ばれる就職氷河期を経験した世代が、80 代の親が親の介護きっかけに離職を余儀なくされた 50 代の子どもと同居し、親の年金頼みで生活をし続ける「8050 問題」、当事者の自尊感情の回復を行いながら、段階的なプロセスを経て一般就労へつなげていくことが肝要であることが述べられている。

ひきこもりが単なる状態を表すものではなく、社会的な弱者へと立場が変化している。生活困窮をどのように食い止めていくかが鍵となるが、長期のひきこもり当事者が緩やかに進むような生き方ができるようにマンツーマンで寄り添える支援が望まれることが記事から読みることができる。

ルポ「ひきこもり」㊱ ―「8050問題」の現状と課題

親子共倒れ、地域からの孤立を防ぐためのソーシャルケアとは

「失われた20年」が生んだ構造的困窮

THE HOPPO JOURNAL

皆様からの投稿をお待ちしています

〒０６４－０８２４　札幌市中央区北４条西２６丁目３－２

「NPO 法人　レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」事務局　通信編集部　宛

ｅ－ｍａｉｌ；info@letter-post.com

10月に開催される当NPO主催のイベントの紹介
ピアサポート活動理解普及啓発事業　道産こもり 179 大学小樽キャンパス

ひきこもり経験者ができるピアサポートって何だろう？そしてピアサポートの中身を学んでみよう！

講師：割田　大悟 氏
講師の紹介：22 歳の冬、初めてひきこもり状態になる。2012 年、ひきこもりの居場所に参加し元気になったのち、ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in 横浜を 2015 年に立ち上げ、ゆるい居場所と先駆的なピアサポート学習会を開催する。2017 年かながわ若者生き活き大賞（キララ賞）受賞。

日時：2018 年 10 月 20 日（土）
13 時 30 分～15 時 30 分
（開場受付 13 時 00 分）
会場：札幌市教育文化会館 4 階 研修室４０２（札幌市中央区北 1 条西 13 丁目）
アクセス方法：札幌市営地下鉄東西線「西 11 丁目駅」1 番出口から徒歩 5 分
受講料：お一人 500 円（資料代）
定員：50 名
受講対象：ひきこもりピアサポートに関心を寄せる人たちであればどなたでも
申込方法　申込み用紙に必要事項を明記のうえ Fax 又は電子メールで送る
後援：北海道新聞社
（平成 30 年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金・ひまわりピアサポート基金助成金事業）

道産こもり 179 大学 小樽キャンパス

道産こもり 179 大学小樽キャンパスでは、ひきこもり当事者が先生になり、ひきこもりの貴重な経験や知識を親や家族、支援者、関心のある一般市民に伝え、これまでのひきこもりが持たれていたネガティブなイメージを払拭していきます。

Ⅰ講目　田中　透　講師
Lunch Meeting　今　昭王　講師
Ⅱ講目　白木　明人（カカロット）　講師

日時：2018 年 10 月 14 日（日）
10 時 30 分～16 時 00 分
（開場受付 10 時 00）
会場：小樽市生涯学習プラザ「レピオ」学習室 1・2（小樽市富岡 1 丁目 5 番 1 号）
受講料：お一人 500 円（資料代）
※講師へのカンパ制導入
定員：50 名
受講対象：ひきこもりに関心を寄せる人たちであればどなたでも
申込方法　事前申込不要、当日会場へ時間までにお越しください
後援：小樽市・北海道新聞社
（公益財団法人北海道地域活動振興協会平成 30 年度ボランティア活動支援事業助成金事業）

私たちの仲間になりませんか　会員募集をしています

レター・ポスト・フレンド相談ネットワークは若者の範疇に入らない成年・壮年期のひきこもりへの対応に軸足を置きながら、ひきこもり当事者が社会に出たとき、自信や希望を持ちながら歩めるような新しい働き方を、当事者自らが創造しています。

ぜひ多くの方々に、私たちの活動の趣旨を理解していただき、ひきこもり当事者が自信をもって生きていくことのできる、新しい社会のあり方をみなさんとともに追求していきたいと考えています。

正会員	賛助会員	寄付金
入会金　1,000 円	入会金　1,000 円	一口　1,000 円～
年会費　3,000 円	年会費　2,000 円	

入会金、会費納入は、下記郵便振替口座へのお振り込みでお願いします。
●口座記号番号　02700-4-66261　●加入者名　レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク

こ ち ら 事 務 局！　　今後の動き(2018 年 9 月～)

◆「SANGO の会」例会のご案内

２０１８年９月は下記日程にて行います。初めての方も参加できます。概ね 35 歳前後のひきこもり当事者や経験者で、人との関係や会話に慣れたいと思っている方、またいろいろな情報を得たいと考えている方は、いらしてください。詳細は事務局までお問い合わせてください。初めて参加される方で、少人数で会うことを希望される方は、事前に事務局までメール、電話でお問い合わせのうえ初心者の例会にお越しください。

《初心者の例会》

と　き：9月 26 日（水）午後５時３０分から７時３０分まで
会　場：北翔大学北方圏学術情報センター・ポルト３階 ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ ﾙｰﾑ
場　所：札幌市中央区南１条西 22 丁目１番１号
（地下鉄円山公園駅下車徒歩５分）

《通常例会・初心者例会予定》は随時、当 NPO のホームページで公開していきますのでご確認ください。http://letter-post.com/

◆「ひきこもりサテライト・カフェ in 小樽」開催のご案内

今後の開催スケジュール（９月以降）
９月１９日（水）１０月１７日（水）11 月 21 日（水）12 月 19 日（水）
2019 年１月１６日（水）２月２０日（水）３月２０日（水）
と　き：午後２時 00 分から午後４時 00 分まで　出入り自由
会　場：小樽市総合福祉センター４階和室（小樽市花園２丁目 12 番１号）
参加対象：ひきこもり当事者及びその家族など
参加費：無料　※事前申し込み不要
後　援：小樽市、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、北海道新聞社
告知案内：小樽市のホームページ https://www.city.otaru.lg.jp/

◆手紙を活用したピア・アウトリーチ開発実務者予定者研修会開催（２日間）のご案内

ひきこもりピアサポートの心構え等の基本的な理解をはじめ絵葉書作成のノウハウや手紙を出すタイミング、守るべき価値理念・知識・方法技術等を幅広く講義並びに演習で学びます。
受講修了者には修了証を交付いたします。ピアサポートに関心のある方はご参加ください。
講師：（第１日目）長谷川俊雄氏（白梅学園大学教授）、山本耕平氏（立命館大学教授）
（第２日目）中川健史氏（NPO 法人仕事工房ポポロ代表）
鈴木祐子氏（小樽不登校ひきこもり家族交流会世話人）
岩田光宏氏（前・堺市こころの健康センター相談係長）
と　き：（第１日目）９月２９日（土）午後 12 時 00 分・開場
（第２日目）９月 30 日（日）午前　９時 00 分・開場
会　場：北翔大学北方圏学術情報センター・ポルト５階　会議室Ａ
参加対象：ピアサポーター実践者２０名（予定）　参加費：１,０００円
申し込み方法：申し込み用紙に必要事項を記入の上、FAX 又はＥメールでお送りください

絵はがき寄贈お礼

今年度手紙を活用したピア・アウトリーチ事業を実施しているところですが、寄贈がありましたのでこの場を借りましてお礼をお伝えしますとともに有効に活用させていただきます。
・鍵政弘子様１６８枚・安達富子様手づくりの絵はがき３０枚・匿名希望者４０５枚

☆ 編 集 後 記 ☆

北海道胆振東部を震源地とする震災により被害に遭われました皆さまには心からお見舞い申し上げます。
一日も早く平穏な日々が戻ることを願っています。　（発行責任者　理事長　田中　敦）

無　断　複　製　はおやめください